

駐妻のヒューストン日記

第236回 磯野ますみさん

一年前、アメリカにやって来たとき、3人の子供達は、中2、小6、小2の学年でした。難しい年頃であることも含め、覚悟して来たつもりでしたが、すぐに、全く違う環境を受け入れる大変さ、難しさ、厳しさを痛感しました。現地校から帰ってきた子供たちも辛そうで、そんな姿を見るのも辛くて、ここに来て良かったのかと悩みました。ですが、誰一人として学校に行くのを拒む事はありませんでした。学校生活は言葉が思うように通じず、苦勞も多いと思います。それでも通い続けることができた、その強さが、いつか子供たち自身の自信に繋がると信じています。出来ることを少しずつクリアして成長出来ればいいと思います。

さて、この3月に家族で日帰り旅行に行ってきました。夫に行き先を尋ねると、何かのツアーに参加すると言うだけで詳細は教えてくれません。心配性な私は大きな不安と少しの期待を持ちつつ、当日を迎えました。

行楽日和の青空のもと、出発してからおよそ3時間、車はどんどん寂しい場所へ移動していきます。こんな場所ですらツアーなんかあるの？と不安がよぎった時、汽笛が聞こえてきました。今回の旅行が何なのか、私達の推測が確信に変わった時、鉄道好きの夫は嬉しそうに微笑んでいました。

到着したのはパレスティン駅。観光鉄道 Texas State Railroad の出発駅で、終点ラスク駅まで往復約4時間の汽車旅が楽しめます。私たちの座席は、大きな窓とソファ席が特徴のドーム車両。ウェルカムドリンクやチーズ、フルーツも用意されており、景色を見ながらのんびり過ごす事が出来ました。夫は、車内の写真を撮ったり、汽車の音を聞いて、誰よりも楽しそうでした。

ラスク駅では1時間ほど停車し、駅の周りの公園で昼食をとることができます。ですが、一つしかない売店に、ほぼすべての乗客が一度に押し

寄せるので、すぐに長蛇の列ができてしまいます。私たちは出遅れて、少し並ぶことになりました。ラスク駅では一番に降りて、すぐに売店に向かうのがコツのようです。

駅で列車が停まっている間も、夫は、最高の一枚を撮るためにあちこち移動してはカメラを構えて、必死でした。添付した写真はそんな夫の一枚、よりもカッコよく撮れていた次女の写真です。

ただただ夫の趣味に付き合わされた休日でしたが、テキサスにこのような観光鉄道があるというのは意外でした。手軽にアメリカの汽車旅を楽しんでみたい方にはお勧めです。私たちにとっても、アメリカ生活1年の節目で、ちょっとした記念旅行になりました。これからも、家族全員で同じ場所で過ごせる事に感謝して、一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。

夫の追記：アメリカの機関車は、日本と違い、進行方向が決まっているものが主流です。Texas State Railroadのディーゼル機関車も運転席が片側にしかありません。折り返し駅では、機関車はデルタ線（三角形に配された路線）を周って、向きを変えて戻ってきます。そして、来た時とは反対側に連結されて、復路の準備が整います。そんな「機回し」の一部始終を眺めるのもまた一興です。ちなみに、SLで運行する日もあるようです！



駐夫日記、駐在ファミリー日記も募集中！



他団体便り

ジャパン・フェスティバル・ヒューストン

明治の美術展 (MFAH) に合わせて9月に開催

毎年Hermann Parkで開催される恒例のジャパン・フェスティバル・ヒューストン。今年はヒューストン美術館(MFAH)で開催される「Meiji Modern: Fifty Years of New Japan」展に合わせて9月7日～8日に開催します。この展覧会(7月7日～9月15日)は、文明開化によって日本が大きく変化した明治時代(1868-1912)の美術を紹介する画期的なもので、今年のフェスティバルのテーマを「Meiji」としました。

31回目を迎える今年のフェスティバルは、引き続き家族全員で楽しめるイベントとして入場無料で実施し、武道演舞、日本の伝統音楽と現代舞踊のパフォーマンス、インタラクティブな展示、日本のお祭りに欠かせない金魚すくい等のゲームと、このフェスティバルでしか体験できない様々な文化的でユニークな機会を提供します。

ヒューストン日米協会会長レアード・ドランは、このフェスティバルの成長と意義について、「このフェスティバルは、ヒューストン市民のために、日系コミュニティが心血を注いで作り上げる労作です。また、毎年ヒューストン市民がこのフェスティバルをとっても楽しんでいる姿を目の当たりにし、本当にやりがいを感じています。」と述べています。

そして同協会事務局長パツィー・ブラウンは、「MFAHのMeiji Modern展に代表される美術品や職人のように、このフェスティバルは、日本の新たな魅力をヒューストン市民に提示することを目的としています。そしてヒューストンの持つ文化的な豊かさに寄与し、日本文化への理解と認識を深める機会を提供できることを誇りに思います。」と、このフェスティバルの文化的重要性を強調しています。

今年のパフォーマンスや催し物等の内容は、開催日に向けて順次発表

されますので、[フェスティバルサイト](#)を是非ご覧ください。

ジャパン・フェスティバル・ヒューストンは、ヒューストン日米協会を主体としたHouston Japanese Festival, Inc.と、City of Houston、Houston Parks and Recreation Department.との共催で行われ、広くヒューストン市民が参加できるよう入場無料のフェスティバルとして開催しております。フェスティバル、並びにスポンサーシップについてのご質問は、ヒューストン日米協会事務局長パツィー・ブラウン(電話:713.963.0121、Eメール: pybrown@jas-hou.org)までお問い合わせください。

今年も多くのヒューストン日本商工会会員の皆様からのご支援、ご協力、そして当日のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

(ヒューストン日米協会 片山育代)



▲2024 Japan Festival Houston Official Artwork Designed By Michael Jap